

DOCTOR!

鳥取の地域医療を考えるマガジン ドクトリ！

vol.

14

2026 / Winter

DOCTOR!

第14号 2026年1月発行 鳥取県地域医療支援センター

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。

鳥取県地域医療支援センターからのお知らせ

NEWS
1

医学生スプリングセミナー
in鳥取2026を開催！

鳥取県の地域医療を体験してみませんか？

開催期間 2026年2月下旬～3月下旬（予定）

対象施設 県内の医療機関 約40施設
（総合病院、自治体立病院や診療所など）

※交通費、宿泊費の一部助成あり

鳥取県では、県内外の大学の医学生を対象に、県内の地域医療の現場に触れて、地域医療への関心を高めていただくため、医学生スプリングセミナーを開催します。

県内の様々な特色のある医療機関で、地域の医療現場を体験できる貴重な機会です。多くの皆さまのご参加をお待ちしています！

応募方法等の詳細は、鳥取県医療政策課ホームページをご覧ください。

※医学生サマーセミナーも8～9月頃に開催します。

応募方法等の詳細はこちらから！

<https://www.pref.tottori.lg.jp/238708.htm>



NEWS
2

第5回キャリア講演会

「奨学金制度を利用した先輩医師は、どこでどんなふうに働いているの？」という医学生の疑問にお答えするために、キャリア講演会を今年も開催します。

鳥取県奨学金制度を活用され、現在様々な分野で活躍中の卒業医師に、これまでのキャリアをお話しいただきます。

在学中の地域枠学生や奨学金制度利用をお考えの皆さんの参加をお待ちしています！

開催日時 2026年2月12日（木）

会場 鳥取大学医学部 記念講堂

申し込み方法など詳しくは、鳥取県地域医療支援センターWebサイト「お知らせ」をご覧ください。1月のメールマガジンでも配信予定です。

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013（平成25）年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域枠などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。



鳥取県の医療・
奨学金制度に関すること

医師のキャリア形成・
相談に関すること

鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7195 FAX 0857-21-3048

鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7005 FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviのご登録を受付中！

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに役立つ県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに関する情報として、「DOCTOR!」やメールマガジンをお届けします。どなたでもご登録いただけます。

とっとりドクター Navi

登録申込フォーム ▶▶▶

<https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm>



※なお、ご登録情報の変更についても、登録申込フォームで承っております。

広報誌名
『DOCTOR!』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

特集1

次代を見据え、新たな進化へ
医療で町をつくる
日南病院の挑戦

特集2

鳥取県で医師のキャリアを築く！

私のキャリア紹介 vol.4 整形外科・耳鼻咽喉科編

編集発行

鳥取県地域医療支援センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1（鳥取大学医学部附属病院内）
TEL 0859-38-7005 FAX 0859-38-7006
Eメール：t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp
Webサイト：<https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/>



□ 制作／有限会社キワード 〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ロゴス文化会館1F TEL 0857-29-4018

「DOCTOR!」の
バックナンバーは
こちら▶▶▶



次代を見据え、新たな進化へ 医療で町をつくる 日南病院の挑戦

日南病院では今、巡回診療やオンライン診療などの新たな取り組みが始まっている。もともとアイデアを実践に移しやすい風風があり、その他にも若手医師による様々な動きが進行中。そのチャレンジに、地域医療の未来が変わる可能性を感じずにはられない。

医療と安心を届け、
通院困難者を救う巡回診療

「町は大きなホスピタル」、日南病院のロゴマークが入った大きなワンボックススカーに5名のスタッフが乗り込む。日南町の南西部、もう数km進めば島根県という奥深い集落、上萩山地区へ向かうためだ。

地区公民館である「つるぎ会館」に到着すると、手際よく処置・検査器具や薬の入ったボックスを車両から運び出す。長机に電子カルテを入力するノートパソコンを置けば、地区公民館の和室はあつという

間に診察室に変わった。

厚生労働省の2022年度調査において、上萩山地区は新たに「無医地区（*）」に指定された。そのことから日南病院では23年10月より、毎月第3水曜日の午後、こちらで「巡回診療」を行っているのだ。

巡回診療は、医療機関の医師や看護師が地域に出向き、診療車あるいは廃校や集会所等のスペースを活用して一時的に診療所を開設する仕組み。同地区から日南病院までは車で約30分ばかり、長時間の運転・移動は高齢者にとって体力的な負担が大きい。積雪が



▲ 超音波画像診断装置（エコー）を使って肩周りの検査を行う谷口医師。ポータブルながら精度が高く、こうしたデバイスが“届ける医療”の充実につながっている。

◀ 上萩山地区公民館の「つるぎ会館」。山深い地域に30世帯ほどが点在。会館まで歩ける距離ではない家も多く、巡回診療に併せて開催される「百歳体操」参加者の送迎も支援する。



▲ この日の健康教室は、日南病院の高見徹名誉院長による認知症勉強会。受診者のみならず地区住民も参加して、予防や対応の仕方について知識を新たにした。



家族や生活背景を把握し、
多職種で連携してサポート

多い地区だけに、冬季はなおさらだ。しかし、地区公民館ならば自宅から近く、患者はもちろん送迎・付き添いをする家族の負担も軽減できる。主担当である内科の谷口尚平医師は、「『町の端っこに住んでいるから医療が受けられない』ということにならないよう、私たちが地域に出向くことで住民の皆さんの健康を支えたい」と、この新たな事業に力を注ぐ。

この日の受診者は4名、なんと全員90代だという。看護師に伴われて入室した男性の受診者に、谷口医師は体を少し傾けて近寄り、「体調はいかがですか」と問いかける。「変わりやあしません。ご飯も食べとります」と、元気な声で答える男

性。続けて畑で育てている野菜のことなどおしゃべり。谷口医師は「うんうん」と、うなずきながら傾聴。診察に直接関係のない話のようでも、「毎日どんなふうに過ごしているのか、生活での困り事はなにか、そんなところに体調変化の兆しがわずかでも隠れているかもしれない」と考えるからだ。

医師だけでなく看護師も、受診者の様子に気を配る。診察前に体重・血圧・酸素飽和度を測定、最近の様子などを尋ね、検査数値とともに谷口医師へ伝える。また、付き添いの家族への声かけも忘れない。「家族から見た患者さんの様子を知りたいし、何より家のキーパーソンとなる人が元氣じゃないといけないから」と、さりげなくサポートする。

受付や医療費の計算を行う医療事務スタッフ、待合の間に体操教室を指導するリハビリスタッフ、車両の運転手まで含めて1つのチーム。見事

な連携で届けられる医療に、受診者の皆さんは「先生に診てもらおうと気持ちがスーッと落ち着く。ありがたい」と感謝を口にする。地域に差し込む医療の光があたたかい。

*無医地区
病院や診療所がない地域で、地区の中心的な場所を起点として半径約4km以内に50人以上が居住しており、かつ定期交通機関が乏しく、容易に医療機関を利用することができない地区。

日南病院 内科
（総合診療専門医）
たにぐち しょうへい
谷口 尚平 先生



地域に寄り添う日南病院の取り組み／

中山間地の日南町は小回りが利き、新たな企画に挑戦しやすい。また、いざとなれば多職種の医療スタッフが速やかに団結する関係性と組織力を長年かけて培ってきた。昔から取り組んできた活動はブラッシュアップし、ないものは新しくつくり上げる。日南病院では、常に“人々の暮らしと地域の未来を支える医療”を考え、実践している。

オンライン診療



訪問看護と連携、ICT*で医療をより身近に

2025年10月からスタート。看護師が在宅療養の患者宅へ伺ってケアを行う「訪問看護」の際、医師に所見を求めたいような体調変化があった場合に、タブレット型端末を使って病院と患者宅をつなぐ。

画面越しでも、問診に答える患者の顔色や声の調子が十分に確認できるし、褥瘡や関節など痛みのある患部をカメラで映し出すことで速やかな診断が可能だ。患者と家族の安心感はもちろん、医師の移動時間短縮、現場で判断に悩む看護師の心理的な不安軽減など、ICTを活用した診療のメリットは大きい。

*ICT：Information and Communication Technology（情報通信技術）

訪問診療 施設診療 看取り



自宅でも施設でも安心して暮せるように

通院が難しい在宅療養の方には「訪問診療」、特別養護老人ホーム、グループホーム等の高齢者施設に入所している方には「施設診療」として、医師・看護師が出向いて定期的な診療を実施している。

訪問診療では、患者の体を診るだけでなく、日常生活の様子も観察。できる限り住み慣れた家で暮らせるよう、必要な検査や処置、薬の処方を行う。

施設診療では、入所者の体調・言動の変化を職員から聴き取りながら診察。終末期ケアや看取りが必要な場合は、診察回数や薬の処方をこまめに調節する。

多職種連携



密な連携で目指す在宅支援の質向上

日南町では、毎週月曜日に「在宅支援会議」を開催、要支援以上の高齢者が自宅で生活し続けるための支援に関わっている保健・医療・介護・福祉・行政の担当者が一堂に会し、サポート内容の連絡調整、困難事例の検討・情報共有などを行っている。

日南病院からは医師、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、介護支援専門員、薬剤師が参加。多職種間の垣根が低くなり相互連携が図りやすい、医師や専門スタッフに気軽に質問できるといった利点があり、充実した支援につながっている。

病児・病後児保育



子育てと仕事に励む保護者を応援！

待望の病児・病後児保育が2025年5月から開始。1歳から小学生までの子どもを対象に、病院に隣接する日南町健康福祉センターのボランティア室で保育を行っている。谷口医師が中心となって受入体制をーから構築、関係者と協力しながら開設に至った。保育士1名だけでなく看護師も1名常駐し、急変時の対応がスムーズにできるようにしている。

定員は2名、町民はもちろん、町外の方でも町内事業所に勤務する方であれば利用可能。働く保護者の強い味方となっている。

ここでしか経験できない医療のカタチがある

視野が広がる面白さ 課題解決にも積極的に挑戦

谷口医師は、鳥取大学医学部在学中から“病ではなく人を診る”地域医療に興味を抱くようになったという。2023年には総合診療専門医を取得。現在は日南病院に勤務しながら、週1日は鳥取大学医学部地域医療学講座の大学院生として研究も手がける。「地域医療の現場では胃腸も心臓も診るし、関節の痛みを抑える注射から皮膚や爪の処置まで行う。患者の日常生活や仕事、家族など生活の背景まで見て診断するし、さらにはもっと広く、地域全体の健康まで考える。どんどん視野が広がるから面白い」と目を輝かせる。

ンジし、看護師や介護士、理学療法士、事務職員等の指導的立場にある人を対象に、後進の教育手法を学ぶ講座を実施した。加えて、1～5年目の看護師向け教育プログラムも考案中だというからすごい。過疎化で働き手も減る日南町。「町外からも『日南病院で学びながら医療に携わりたい』という人を増やせたら」と谷口医師。「医療教育の場」を構築することは日南町の医療を保つためにも不可欠と、地道に歩を進める。「小さな町だけど、その分何にでも挑戦できる。そこに面白みを感じられる人は、ぜひ見に来てほしい」とメッセージを送る。

持続可能な地域医療へ 若手の力を糧に前進する

日南町の人口は約3700人、そのうち65歳以上の老年人口は55%を超えており、高齢化率は県内で最も高い。ゆえに医療課題は複雑化している。濱田紀宏病院長は、「高齢の患者は、心臓の持病があり、糖尿病も罹患、ひざも悪い、認知症の症状も始めているというように、複数の診療科にまたがる疾患を抱えている人が多い。それに加えて、独居、もしくは家族も病気、車がなくて病院はおろか買い物にも行けない、といった環境要因も絡み合う。そうなることこれまでと同じやり方では解決が難しい」と現状を説く。

だからこそ、足踏みをしているわけにはいかない。日南病院では、町の財政や人口動態を踏まえつつ、暮らしの安心確保と医療・介護の持続可能性を同時に高めるべく地域全体の再設計を進めている。その一部が3ページの取り組みだ。

そして、若手医師らによるこれまでのないアプローチも未来の鍵を握る。「ここには教科書では得られない実践的な学びと、医師としての原点を見つめ直す機会が数多くある。自分の力を存分に発揮し、周囲を巻き込みながら新しい医療の形を共に模索し、それを自身の成長の糧にしてほしい」と、濱田病院長は背中を押す。

日南町国民健康保険 日南病院について

診療科 8科
病床数 99床

「町は大きなホスピタル」を院是に掲げ、病院スタッフが毎日のように町を行き交い、住民の在宅生活を支えるため訪問診療・訪問看護を積極的に推進する。「在宅支援会議」「地域包括ケア会議」を創設、毎週開催して院内外の保健・医療・介護・福祉など専門スタッフが集う。垣根を越えて情報共有、適切な支援策を考案・提供する体制を構築している。



日南病院 病院長
はまだ としひろ
濱田 紀宏 先生



鳥取県で医師のキャリアを築く！ 私のキャリア紹介

～ 専門研修プログラム基本領域別 ～

専門医・専攻医の先生方が実際にどのように専門研修に取り組まれたか、そして今後のキャリアをどう捉えておられるかを専門研修プログラムの基本領域ごとに、シリーズでご紹介します！

Vol.4

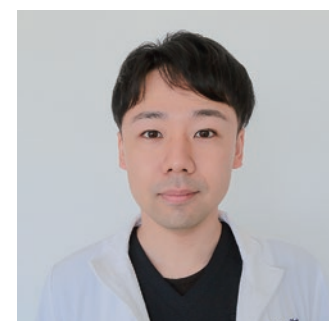
-整形外科・耳鼻咽喉科編-



専門研修を振り返って

学生の頃から運動器疾患の奥深さに魅力を感じ、鳥取大学の整形外科に入局しました。鳥取県の地域枠制度では、卒業後に知事指定医療機関で診療を行うことが条件ですが、整形外科は大学病院での勤務も最長3年間まで地域枠義務期間に含まれるため(※)、4年間の専門研修の後、さらに鳥大病院で勤務を継続しても、地域枠の義務年限を無理なく終了できる見込みです。関連病院では多くの経験を積み、充実した専門研修を経て、最短で整形外科専門医を取得することができました。

※詳細は、下図キャリアパスの「卒業後従事要件」を参照



鳥取大学医学部附属病院
整形外科

なかむら たいき
中村 太紀 先生

地域枠

選抜方法

鳥取大学医学部医学科
学校推薦型選抜II(地域枠)

鳥取県米子市生まれ。2019年3月、鳥取大学医学部医学科卒業。

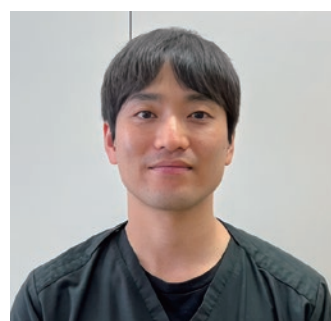
今後の抱負

今後は、脊椎脊髄外科を中心に臨床経験を重ねつつ、大学院では基礎研究に取り組む、成果をあげることを目指しています。高齢化が進む鳥取県において、整形外科医として患者さんの健康寿命を支えられるよう、日々の診療と研究を通じて地域に貢献していきたいと考えています。



専門研修を振り返って

学生時代の臨床実習中に耳科手術に興味を覚えたことが、診療科選択のきっかけです。また、鳥取大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科の医局の先生方に魅力を感じたことが、鳥大病院の専門研修へ進む決定打となりました。当科は、他県でしか経験できない症例というものが少なく、キャリア形成に恵まれた医療圏および医局環境だと感じます。



鳥取大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科頭頸部外科

かみたに りょう
紙谷 亮 先生

地域枠

選抜方法

鳥取大学医学部医学科
学校推薦型選抜II(地域枠)

鳥取県米子市生まれ。2019年3月、鳥取大学医学部医学科卒業。

今後の抱負

4年間の専門研修を経て、今年9月に耳鼻咽喉科専門医を取得しました。今後は、耳科手術を含めた耳科学をサブスペシャリティとして研鑽を積んでいきたいです。自身のキャリア形成を行いつつも、常に一人一人の患者さんに最善の医療を提供できるような医師を目指したいと思っています。



紙谷先生のキャリアパス

医師国家試験合格 臨床研修開始		専門研修 プログラムへ登録 専門研修開始		9月 (基本領域) 耳鼻咽喉科専門医取得			今後は サブスペシャリティ 領域専門研修 (耳科学)			
臨床研修 鳥取県立中央病院		耳鼻咽喉科専門医研修 鳥大病院：耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラム					サブスペシャリティ専門研修・勤務など			
勤務地	鳥取県立中央病院	鳥取県立中央病院	鳥大病院	鳥大病院	鳥大病院→ 鳥取赤十字病院	鳥取 赤十字病院	鳥取赤十字病院 →鳥大病院			
年度	2019 医師1年目	2020 医師2年目	2021 医師3年目	2022 医師4年目	2023 医師5年目	2024 医師6年目	2025 医師7年目	2026(予定) 医師8年目	2027(予定) 医師9年目	
地域枠義務	12カ月	12カ月	12カ月	猶予期間	猶予 期間	6カ月	12カ月	3 カ月 猶予期間	15カ月 (予定)	

地域枠、編入枠、一般貸付枠(4年以上奨学金を受給)の卒業後従事要件

- 臨床研修：県内に限定(2020年度奨学金貸与者から)
※県内の病院が管理する臨床研修プログラムの研修期間は地域勤務の期間に算入し、猶予期間を追加
- 地域勤務：臨床研修修了後、9年間のうち4年を県内指定病院で勤務
※臨床研修修了後の鳥大病院の勤務について
特定診療科(小児科、産科、救急科、精神科、外科、整形外科)等：最長3年まで勤務期間に算入
特定診療科等以外：最長1年まで勤務期間に算入し、最長3年まで猶予期間を延長
※詳細は鳥取県キャリア形成プログラムを参照(<https://www.pref.tottori.lg.jp/317209.htm>) →



2027年6月末日
従事要件
達成見込み

中村先生のキャリアパス

医師国家試験合格 臨床研修開始		専門研修 プログラムへ登録 専門研修開始		4月 大学院入学		6月 (基本領域) 整形外科 専門医取得		①サブスペシャリティ 領域専門研修 (脊椎脊髄外科) ②脊椎脊髄外科 専門医取得	
	臨床研修 鳥大病院：山陰たすきがけプログラム		整形外科専門医研修 鳥大病院：整形外科専門研修プログラム				サブスペシャリティ専門研修・勤務など		
勤務地	松江 市立病院	鳥大病院	鳥大病院	鳥取県立 中央病院	松江市立病院→ 益田赤十字病院	益田 赤十字病院	鳥大病院	鳥大病院 (予定)	
年度	2019 医師1年目	2020 医師2年目	2021 医師3年目	2022 医師4年目	2023 医師5年目	2024 医師6年目	2025 医師7年目	2026(予定) 医師8年目	
地域枠義務	12カ月	12カ月	12カ月	12カ月	猶予期間	猶予期間	12カ月 (予定)	12カ月 (予定)	

地域枠、編入枠、一般貸付枠(4年以上奨学金を受給)の卒業後従事要件

- 臨床研修：県内に限定(2020年度奨学金貸与者から)
※県内の病院が管理する臨床研修プログラムの研修期間は地域勤務の期間に算入し、猶予期間を追加
- 地域勤務：臨床研修修了後、9年間のうち4年を県内指定病院で勤務
※臨床研修修了後の鳥大病院の勤務について
特定診療科(小児科、産科、救急科、精神科、外科、整形外科)等：最長3年まで勤務期間に算入
特定診療科等以外：最長1年まで勤務期間に算入し、最長3年まで猶予期間を延長
※詳細は鳥取県キャリア形成プログラムを参照(<https://www.pref.tottori.lg.jp/317209.htm>) →



2027年3月末日
従事要件
達成見込み

県外医療機関での専門研修は猶予期間を活用



「トリノス」って何？

ひなが育ち、飛び立ち、羽を休めに帰ってくる鳥の巣。それと同じように、鳥取の医学生らが語り合いながら成長し、未来へ飛び立つための“巣”にしてほしいという意味が込められています。

卒業後はともに鳥取県内の自治体病院へ派遣される自治医科大学および鳥取大学特別養成枠の医学生が、地域医療への意識を高め、将来のイメージをより明確に持てるようにと企画された、初めての取り組みです。

記念すべき第1回目は28名が参加。県東部の自治体病院見学、岩美町の探索などを行いつつ、将来同僚となる学生同士はもちろん、先輩医師や行政職員とも交流。

充実した2日間の様子をご覧ください！

8.22(金)

視野が広がり、考えが深まる

地域医療研修会

岩美町長との昼食懇談会

テーマ 岩美町の魅力と医療について

12:00

13:00

学生から質問が殺到！



岩美町長

長戸清町長が町の課題と医療の役割について講話されると、参加学生から相次いで質問が。理解の深化が感じられました。

レクチャー

13:30-14:50

レクチャー1 鳥取県東部圏域の保健医療について

講師 鳥取市保健所 長井大所長、竹安航医長

レクチャー2 岩美病院の医療について

講師 岩美病院 内科 吉田諒医師

吉田先生・竹安先生



9年目医師が再会！

▲講師の話を熱心に聞く参加学生。

異文化交流ワークショップ

15:00-16:15

講師 大山診療所 井上和興医師

まだ話したことのない学生同士でグループをつくり、対話的な振り返りを通して学生交流が促進されました。



ワークショップの様子

▼医師の仕事は病院勤務を思い浮かべがちだが、保健所勤務など多様な働き方があることを知り、キャリア形成の参考になった。

五感で感じる地域の魅力

岩美町探索&病院見学

岩美町スタディツアー

8:40-11:00

地域フィールドについて見識を深めることを目的とし、いわみガイドクラブさんのご案内で岩美町内を巡りました。

バスで海岸沿いを周遊した後、海岸へ出て千貫松島などの景勝地を散策し地形や地域の成り立ちを学習。次に網代地区内を歩き、住民やガイドの話を通じて地域理解を深めました。



展望所



千貫松島

炎天下の中頑張りました！

訪問先 千貫松島、網代展望台、網代地区の街並み、旧道（網代隧道）など



網代地区の街並み

岩美病院見学

11:05-11:30



内科の尾崎隆之先生

▼学生のうちに特別養成枠と自治医大の交流があるのは非常に有意義だと感じた。

▼岩美町内を自分たちの目で見て歩いた後に町長のお話を聞いたことで、地域への理解が深まった。五感で得る情報の大切さを実感した。



第1回

自治医大×鳥大特別養成枠 学生合同セミナー

トリノスセミナー

Trinos Seminar

開催しました！

8.21(木)

一日を振り返りながら楽しく親睦

実習報告会&交流会

実習報告会

18:00-19:00



実習の成果を発表！

限られた時間の中、スライド制作...

▲見学・実習の内容や感想を発表して全員で共有。

学生&若手医師 交流会

19:00-20:30

協力してくださった病院・診療所の医師、鳥取市保健所や行政関係者など30名以上の方々に参加学生の実習報告発表をご覧いただいた後、交流会を行いました。

お弁当を食べながら自己紹介し、お互いの大学の話をしたり、少し先をいく若手医師からキャリアについて具体的な話を伺ったりしました。



交流会の様子

▼将来勤務する可能性のある病院での実際の生活や、それまでのキャリアを聞くことで、卒後のイメージがより具体的になった。

▼岩美病院では行政と連携し様々な支援制度を整えて、地域住民に寄り添った医療を提供できるような体制が整えられていると感じた。

▼少人数だったので、検査を実際に体験させていただき、とても学びになった。

▼丁寧に院内施設を紹介してもらえて充実していた。また、院長先生を含め多くの先生方から将来の目指すべき医師の姿を学ぶことができた。

参加学生の声

自治体病院・診療所、保健所へ

8:30-16:00

両大学混成で5グループに分かれてそれぞれの訪問先へ向かい、見学・実習を行いました。佐治診療所を訪れたグループは、鳥取市保健所も見学。病院とは違う保健所の業務内容に興味深く耳を傾けました。岩美病院を訪れたグループは実際の訪問診療に同行、地域医療の最前線を体感することができました。



智頭病院



鳥取市保健所

訪問先 鳥取県立中央病院、鳥取市立病院、佐治診療所、鳥取市保健所、岩美病院、智頭病院

グループに分かれて訪問

岩美病院

1度は行くべし！ TOTTORI★イチョオシ名鑑

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎号1カ所ずつご紹介しします。せっかくの鳥取LIFE、楽しまなきゃ損ですよ！

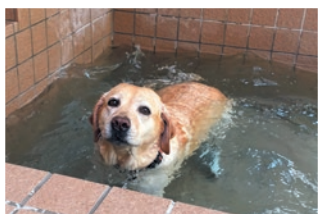
Enjoy Tottori life!



心地良さに愛犬もウットリ ジーンと染み入る鳥取の古湯

1000年以上の歴史があり、「鳥取の奥座敷」と呼ばれる吉岡温泉。昔ながらの温泉街をゆくと現れるのがコチラ、源泉かけ流しの日帰り温泉施設です。木風呂と岩風呂の大浴場には開放感あふれる露天風呂や打たせ湯も。50℃を越す源泉を活かした熱〜い湯に日々の疲れが吹き飛びます。弱アルカリ性でお肌に優しいのも特徴です。

面白いのは犬専用の湯治風呂もあること。ドライヤーやペットシーツなども完備。シャンプーでさっぱりした後ポッカポカのお湯にゆったり浸かれば、わんこのお目々もトロ〜ンなのです♡



吉岡温泉会館 一ノ湯



住 鳥取市吉岡温泉町666
☎ 0857-57-0555
営 8:00〜21:00 (最終受付20:30)
休 不定休
¥ 高校生以上700円、小・中学生350円、65歳以上600円
P あり(無料)
山陰道吉岡温泉ICから車で約3分



遊

@ Eastern /



「わんこの湯」の情報は
こちらからどうぞ！

わんこの湯
Webサイト



らぁ麺 池島



▲白トリュフオリブの特製醤油らぁ麺 1,600円

住 西伯郡大山町富長123
☎ 050-8884-9898
営 11:00〜LO14:30
金・土・日曜日の18:00〜LO20:00
休 火曜日、水曜日
P あり(無料)
山陰道名和ICから車で約7分

待ち時間が少ない
Web予約をどうぞ！

Web予約



味の立体感マシマシ!! 白トリュフの香り立つ一杯

研究熱心な店主が紡ぎ出すスープは、大山豚、大山ハーブ鶏、境産産いわし煮干し、数種の節類や乾物、央道湖産シジミなどから取る出汁により、豊かな膨らみと透明感が同居。繰り返し押し寄せる旨味の波に舌の味蕾も喜ぶよう。

そこにさらなる深みと広がりを与えるのが、白トリュフオリブオイル。醤油との相性抜群で、細身のストレート麺に絡んですするたびに芳醇な香りがフワリ。低温調理でしっとり食感に仕上げた大山豚と大山ハーブ鶏のチャーシューも絶品。はじめの一口から最後の余韻まで味わい尽くせますよ！



若手医師・医学生REPORT

DOCTOR!のタマゴ

「これから“DOCTOR!”になるぞ」と頑張っている先輩たちに、これまでの歩みや現在の様子を聞いちゃいました！

二次救急や内科の実践を重ね、力を付ける



山陰労災病院
臨床研修1年目
こばやし まさのり
小林 正典 先生
2018年 東海高等学校(愛知県) 卒業
2025年 鳥取大学医学部医学科 卒業
2025年 山陰労災病院 臨床研修医

私は、自然豊かで人の温かさにあふれる鳥取県で、地域に根差した医療を実践したいと考え、鳥取県での勤務を決めました。

山陰労災病院での研修を希望した理由は、二次救急の初期対応を臨床研修医が行えること、内科的な疾患の管理や治療についてしっかりと学ぶことができるからです。研修では指導医の先生方に手厚くご指導していただいており、日々研鑽を積んでいます。

時間外の救急対応は任意であり、都合に合わせて勤務を調整できることが当院の大きなメリットです。臨床研修が始まって半年以上が過ぎ、最



初は右も左も分からなかった救急外来の初期対応もなんとかこなせるようになりました。挿管や腰椎穿刺なども経験させていただいています。

研修医同士の仲が良く、誕生日パーティーをしたり一緒に旅行に出かけたりすることもあり、充実した研修を送っています。



愛妻の手料理に
優るものなし！

最近の楽しみは、家で食べる妻の手料理です。ハンバーグやオムライス、パスタなど、様々な料理を作ってくれるんです。ただいま我が家のトレンドは「ロールキャベツ」。野菜を美味しく摂取できるし、ご飯がよく進むので、とても気に入っています♪

地域枠ならではの学びで仲間と共に成長



鳥取大学
医学部医学科 6年
おくの みか
奥野 光夏 さん
2020年 米子東高等学校 卒業
2020年 鳥取大学医学部医学科 入学

私が地域枠を選んだのは、地元である鳥取県で働きたいという思いがあったからです。

6年間の大学生活を振り返って、この枠を選んで良かったと感じています。授業や地域枠のイベントを通じて地域に出る機会があり、鳥取県の医療や住民の方々の暮らしについて早い段階から学び、考えることができ、とても貴重な経験となりました。

また、仲間が多いことも地域枠の魅力の一つです。6年生になり将来について考える中で、これからも多くの同期と共に、同じ地域で支え合いながら成長していけることに心強さを感じています。



素の自分に戻れる
故郷の美しい海岸

休日、美味しいものを食べに出かけたり、自然の中で過ごしたりしてリフレッシュしています。お気に入りのスポットは「皆生(かいけ)海岸」。波の音を聞いているだけで癒されます。夜には流れ星が見えることも。心落ち着く、大好きな場所です！